

第IV巻・第1號

(通巻第9號)

近畿甲蟲同好會

昭和24年5月

會 報

THE TRANSACTIONS OF
VOL. IV, NO. 1. THE KINKI COLEOPTEROLOGICAL SOCIETY MAY, 1949.

フトカミキリ亞科の天牛2種

林 匡 夫

TWO SPECIES OF LONGICORN BEETLES OF LAMIINAE FROM JAPAN.

By MASAO HAYASHI.

本報には從來 '*Exocentrus*' *fuiyamai* MATSUMURA et MATSUSHITA(1933)として
取扱われていた種を日本未記録の属 *Miaenia* PASCOE (1864) に移し又全く日本よりは記
録されていなかった *Eumecocera impustulata* (MOTSCHULSKY) (1860) の本州・九
州に分布することを述べ、諸賢の御批判を仰ぎたいと考える次第である。

本稿を草するに際しては黒澤良彦・衣笠恵士・小池寛・松田勝毅の諸氏よりは貴重な標本を
惠與或いは貸與され、戸澤信義・中條道夫兩氏よりは貴重な文献の自由使用を許され、水戸野
武夫・大林一夫・中根猛彦の諸氏は日頃適切な指導を與えられ或いは原稿の校閲を賜り夫々
絶大なる御支援を得たことを明記して、ここに上記の諸先輩・友人各位に深甚なる感謝の意を
表する。

1. *Miaenia fuiyamai* (MATSUMURA et MATSUSHITA) (Acanthocinini)

フジヤマチビカミキリ (第1圖)

Exocentrus fuiyamai MATSUMURA et MATSUSHITA; Ins. Mats., VII(3),
p.108 (1933); MATSUSHITA; Journ. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ., XXXIV
(2), p.396 (1933); MITONO; Cat. Col. Japon., Pars 8, 94 Ceramb., p.194 (1940);
SEKI; Cat. Longic. New Japan, p. 105 (1946).

體は黒褐ないし栗褐色、觸角及び翅鞘はやや明るい(模式標本は黄褐色)。頭部

は前胸より明かに幅狭く、複眼は大きい。小點刻を密布し灰色毛を生ずる。口器は黄褐色。觸角は體の1倍半の長さ、細毛を下面に生じ、第1節はほぼ圓筒形、第3・4節は他の各節よりも明かに長く第4節は前者より僅かに短い。後續の各節は漸次短縮され、第2節以下の各節先端部は濃色を帯びる。前胸は長さも幅もほぼ等しく、側方は僅かに丸められ中央後方に小突起を具え、前縁は前方に丸く凸出する。背面は小點刻を密布し且灰色毛により兩側及び中央に縦帶狀に灰色斑を具えるが時には甚だ判然としない場合がある。小楯板は三角形、灰色毛で被れる。翅鞘は

少しく長く、灰色毛を装うが、基部中央から後方内側に斜に縫合線に向うもの、中央より後方の幅広い横帶及びそれと翅端との間の側縁に僅かにふれ縫合線に達しない紋の各部は夫々毛を缺き地色を現わし全面にやや大きい點刻を装う。肢は普通、腿節は肥大し、前跗節は他の跗節よりも短くやや幅が広い。體下は灰色毛を装う。體長：4—5mm。

產地—東京都大森、1940年8月2日、衣笠惠士氏；新潟縣岩船郡下海府村桑川、1948年6月18日、小池寛氏。

分布—日本（本州）。

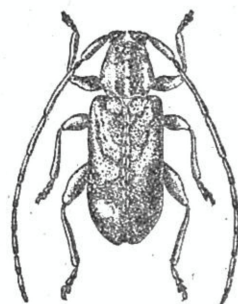
本種の軀の狭い頭部、第3・4節の特に長い觸角、跗節の構造及び體に剛毛を缺く諸點は *Exocentrus* より *Miaenia* の定義によく適合する。*Miaenia* に屬する種は東洋區の東部及びオーストラリア區の一部に分布し、從來知られた最北の分布地は中華民國台灣省であつたが今回日本に迄分布することが判明した。本種の體制及び斑紋等の點では原記載によれば少し短い觸角を除きホルネオのサンダカンに産する *M. rufura* FISHER (1925) に極めて近い。尙同様の體制を持つ *E. tonsus* BATES (1873) も又 *Miaenia* に移すべきであると考えているが標本が少いためその斷定を將來に留保する。

2. *Eumecocera impustulata* (MOTSCHULSKY) (Phytoecini)

ヨ ス ジ ア ラ カ ミ キ リ (第2圖)

Saperda impustulata MOTSCHULSKY; Schrenck, Reisen im Amurlande, II, Col., p. 151 (1860).

Eumecocera impustulata, SOLSKY; Hor. Soc. Ent. Ross., VII, p. 392 (1871); KRAATZ; Deutsche Ent. Zeitschr., XXIII, p. 96 (1879); OKAMOTO; Ins. Mats., II, p. 85 (1927); MATSUSHITA; Journ. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ., XXXIV(2), p. 426 (1933); OHBAYASHI; Trans. Kansai Ent. Soc., No. 8, p. 115 (1939); MORI &



第1圖

Miaenia fujiyamai

(MATSUMURA et MATSUSHITA)

CHO; Vol. Tubil. Prof. Yoshida, I, p. 548 (1939); MITONO; Cat. Col. Japon., Pars 8, 94 Ceramb., p. 219 (1940); GRESSITT; Spec. Publ. no. 8, Lingnan Nat. Hist. Surv. & Mus., Lingnan Univ., p. 35 (1942).

體は長く兩側やや平行，黑色，全面に白色の長毛を疎らに，又銀色に輝く蒼白綠色ないし灰白色（或いは淡黄色を帯びる場合もある）の鱗毛を密布する。前胸上の4本の縦條（時に翅鞘の側縁部），觸角及び肢は裸出して黑色。背面はやや平坦，頭部は複眼後方で僅かに狭まり密に小さく且深く點刻され中央には細い1縦隆を有する。觸角は細長く，兩性とも體長を越える。第3節は最長，第1・2節の合計よりも長く，第4節以下の各節は極めて僅かに短縮するが，第1節よりは長い。各節は全面灰色の細微毛で被われ，又下面に黑色の長毛を散生する。前胸は圓筒形，幅よりも長く，基部の方に少しく狭まり側方は少し丸く凸出して頭部より少しく幅は廣い。密に深く強く小皺狀點刻を装う。小楯板は後方の丸い方形。翅鞘は前胸より明かに幅廣く，肩部の幅の2倍半ないし3倍弱の長さ，♂では後方僅かに狭まり♀では兩側殆んど平行，先端は夫々丸く突出し縫合線部でやや角ばる。基部より後方に漸次小さくなる大點刻を装う。肢は細長。體長：9—12.5mm.



第2圖
Eumecocera impustulata
(MOTSCHULSKY)

產地—福島縣南會津郡岩村湯ノ花，1947年6月14日，黒澤氏；鳥取縣西伯郡伯耆大山，1947年6月28日，林；大分縣直入郡祖母山，1943年8月14日；1947年7月29日，松田氏；East Manchuria (Yablonia)，1940年7月，A.S. Loukashkin. 尙大林一夫氏の御好意で岡本半次郎博士が記録に用いられた朝鮮（光陵）産の標本を検査することが出来た。其他原產地ダウリヤ，大林氏による滿洲（Cheng-chin）及び森・趙兩氏による滿洲（玉泉）が報告されているにすぎない。

分布—日本（本州・九州），朝鮮，滿洲，東シベリヤ。

本種は一見 *Stenostola* の或種と誤認されやすいし特に日本産のものは銀色光澤のある蒼白綠色を呈するものが少く，多くは灰色，黄色を帯びる様であるが上述の標識及附圖により同定し得るであろう。

参 考 文 献

- F. P. PASCOE; Longicornia Malayana; or, a descriptive catalogue of the species of the three Longicorn Families Lamidae, Cerambycidae and Prionidae, collected by Mr. A. R. Wallis in the Malay Archipelago; Trans. Ent. Soc. London, (3) III, pp. 27, 38-40 (1864).

昭和二十四年五月二十五日 印刷
昭和二十四年五月二十五日 發行

兵庫縣川邊郡寶塚御殿山
編輯人兼
發行所
大倉正文

大阪市旭區新森小路中二丁目九四
印刷所
宏榮社印刷所

兵庫縣川邊郡寶塚御殿山
大倉正文
發行所
近畿甲蟲同好會

S. SOISKY; Coleopteres de la Siberie orientale; Horae Soc. Ent. Rossicae, VII, pp. 391-394 (1871).

W. S. FISHER; New Malayan Cerambycidae: Subfamily Lamiinae; Philippine Journ. Sci., XXVIII (2), pp. 267-268 (1925).

M. MATSUSHITA; Ueber die neuen Cerambyciden Arten Japans; Ins. Matsum., VII (3), p. 108 (1933); Beitrag zur Kenntnis der Cerambyciden des Japanischen Reichs; Journ. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ., XXXIV (2), pp. 389, 395-398, 426 (1933).

J. L. GRESSITT; The Longicorn Beetles of Hainan Island; Philippine Journ. Sci., 72 (1-2), pp. 182, 187-188 (1940); A Provisional Synopsis of the Longicorn Beetles of China. II-Subfamily Lamiinae; Spec. Publ. No. 8, Lingnan Nat. Hist. Surv. Mus., Lingnan Univ., Canton, China, pp. 28, 30, 35 (1942).

訂 正

本誌創刊號, p. 24 (1946) において *Eupogonius tenuicornis* と *Terinaea atrofusca* を比較したが, 4 の *Eupogonius tenuicornis* の觸角各節の比は誤植されていた. 次の様にすべきであるのでここに訂正する.

$$3\frac{2}{3}:4>5=6>1>7>8>9>10>11>2$$

新潟縣西蒲原郡産の注目すべき天牛

新潟縣巻町 横田 榮三郎

1. *Xystrocera globosa* (Olivier, 1759) アナスザカミキリ

本年(1948)9月2日所用で浦濱村の海岸にある“濱の家”に赴いたところ, 同夜同家の電燈に多数の本種が飛來し天井を覆ひ壯觀を極めた. その数は少く見積つても50頭を下らぬものであつたが, 生憎殺蟲管を持たなかつたので10余頭の生品を持歸つたに過ぎなかつた. 本種は富田産山塊地方一帯に産するが, 此様に多数に相遇したのは之が最初である. 因に同海岸にはネムノキは少くない.

2. *Xylotrechus grayii* (White, 1855) ムネマダラトラカミキリ

縣立巻高等學校の森口祐宏君が同君宅(岩室村)附近で2頭を捕へた. 同君の話に依ると他に同君の友人で多数捕へた者があり, 桐を食害するらしいと云ふ.

3. *Chlorophorus muscosus* (Bates, 1873) フタオビミドリトラカミキリ

1944年8月6日にやはり浦濱村の五ヶ峠で路傍に積んである薪の上から1♂を採集した. 既に佐渡から記録があるが(自然研究, 第5號, 1936), 對岸の新潟縣本土からは最初の記録と思ふ. 馬場金太郎氏に依ると佐渡ではケヤキに加害すると云ふ. (25, 11, 1948)